

る上で重要な要素であることから、今後の調査で、被害後のストレス体験やそれによる生活や行動の変化などを評価し、明らかにする予定である。

#### 5. 本調査の限界と課題

本研究は、今まで日本で行われてきた犯罪被害者の調査における2つの問題①大規模調査であるが精神健康を主眼としていないため精神健康についての情報が少ない、②精神健康の評価を主な目的にしているがサンプル数が少ない、をクリアするために、サンプル数を多くし、複数の精神健康尺度を用いて、精神健康に関してより詳細な分析を行う調査として実施した。しかし、対象者が当事者団体の参加者とその家族に限定されるために、母集団の偏りが生じていることが最も大きな問題である。また、今回の対象者は80%が遺族であり、被害から長期経過したものが多いことから、犯罪被害者本人と被害から間もない被害者の状況を明らかにすることはできなかった。このような問題を解決するためには、一般住民を対象にして被害体験者をリクルートする、あるいは産婦人科や救命救急など精神的問題以外で被害者が多く訪れる機関を対象に連続サンプリングを行うような調査を実施することが必要である。

また、本調査で明らかにすることのできなかった具体的な精神疾患の診断評価、刑事手続きや裁判への満足度、被害後のストレスイベントは、今後面接調査において行う予定である。

#### E. 結論

犯罪被害者当事者の会に所属する被害者(275名)とその家族を対象に郵送による自記式のアンケート調査を行い、193人から回答を得た(回収率26.3%、会員からの回収率53.1%)。

対象者は、女性が67.6%、平均年齢52.1歳であった。記載者の被害体験は、被害者本人が25人(13.3%)、致死ではない被害者の家族18人(9.6%)、遺族151人(80.3%)と遺族が多かった(複数回答)。罪種は殺人等故意の犯罪による致死が最も多く(70.7%)、ついで傷害等故意の犯罪による負傷(15.4%)であった。気分障害および不安障害のハイリスクとされるK10のカットオフ値(25点以上)のもの(K10高得点群)の割合は、全体で76人(40.9%)であった。K10高得点群の割合は、被害者本人が最も高く(68.4%)、ついで遺族(41.5%)、家族(16.5%)であった( $p < 0.01$ )。その他、K10の高得点群に有意に関連する因子は、女性、裁判における意見陳述の経験、被害時の強い恐怖、戦慄、主観的健康の不良、事件から今までの2週間以上の精神的不調と精神科医療機関の受診、主観的二次被害得点の高さであった。本調査の結果からは、犯罪被害者の精神健康を改善するためには、上記にあげられた因子を踏まえた介入を行うことが必要であるといえる。しかし、これらの因子が精神健康に直接関連しているのか、あるいは他の因子を介して影響しているのかは明らかではない。この点については、被害者を対象とした面接調査によって明らかにしていく予定である。また、本調査では、対象者の偏りの課題があり、精神疾患の有病率等について明らかにすることができなかった。それについては本調査の結果をもとに、今後、より偏りの少ないサンプリングの手法に基づいた大規模の犯罪被害者の精神健康についての実態調査を検討していくことが必要である。

#### F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 文献

- 1 有園博子, 加藤寛, 煙崎久子: 突然の事故により家族と死別した遺族の経年的な心理状態の変化. 心的トラウマ研究 2:31-39, 2006
- 2 Asukai N, Kato H, Kawamura N, et al.: Reliability and validity of the Japanese-language version of the impact of event scale-revised (IES-R-J): four studies of different traumatic events. J Nerv Ment Dis 190:175-82, 2002
- 3 Boudreaux E, Kilpatrick DG, Resnick HS, et al.: Criminal victimization, posttraumatic stress disorder, and comorbid psychopathology among a community sample of women. J Trauma Stress 11:665-78, 1998
- 4 Brewin CR, Andrews B, Valentine JD: Meta-analysis of risk factors for posttraumatic stress disorder in trauma-exposed adults. J Consult Clin Psychol 68:748-66, 2000
- 5 Freedy JR, Resnick HS, Kilpatrick DG, et al.: The psychological adjustment of recent crime victims in the criminal justice system. J of Interpersonal Violence 9:450-468, 1994
- 6 古川壽亮, 大野裕, 宇田英典, 中根充文: 一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究; 主任研究者川上憲人, 厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業平成 14 年度総括・分担研究報告書 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究, 2003, pp 127-130.
- 7 Gavrilovic JJ, Sch?tzwohl M, Fazel M, et al.: Who Seeks Treatment After a Traumatic Event and Who Does Not? A Review of Findings on Mental Health Service Utilization. Journal of Traumatic Stress 18:595-605, 2005
- 8 廣幡小百合, 小西聖子, 白川美也子, 淺川千秋, 森田展彰, 中谷陽二: 性暴力被害者における外傷後ストレス障害—抑うつ、身体症状との関連で. 精神神経学雑誌 104:529-550, 2002
- 9 法務省法務総合研究所編: 平成 12 年度版 犯罪白書 —経済犯罪の現状と対策—, 大蔵省印刷局, 東京, 2000
- 10 犯罪被害実態調査研究委員会: 犯罪被害者実態調査報告書, 東京, 2003
- 11 法務総合研究所: 平成 11 年度版 犯罪白書—犯罪被害者と刑事司法—, 大蔵省印刷局, 東京, 2001
- 12 法務総合研究所: 平成 16 年度版 犯罪白書, 国立印刷局, 東京, 2004
- 13 Kaltman S, Bonanno GA: Trauma and bereavement: examining the impact of sudden and violent deaths. J Anxiety Disord 17:131-47, 2003
- 14 川上憲人, 大野裕, 宇田英典, 中根充文, 竹島正: 地域住民における心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究: 3 地区の総合解析結果; 主任研究者川上憲人, 厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業平成 14 年度総括・分担研究報告書 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究, 2003, pp 11-44.
- 15 Kessler RC, Andrews G, Colpe LJ, et al.: Short screening scales to monitor

- population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychol Med* 32:959-76, 2002
- 16 Kessler RC, Sonnega A, Bromet E, et al.: Posttraumatic stress disorder in the National Comorbidity Survey. *Arch Gen Psychiatry* 52:1048-60, 1995
- 17 Kilpatrick DG, Saunders BE, Amick-McMullan A, et al.: Victim and crime factors associated with the development of crime-related post-traumatic stress disorder. *Behavior Therapy* 20:199-214, 1989
- 18 厚生労働省大臣官房統計情報部: 平成 16 年国民生活基礎調査 第 2 巻全国編, 厚生労働省大臣官房統計情報部, 東京, 2006
- 19 Murphy SA, Das Gupta A, Cain KC, et al.: Changes in parents' mental distress after the violent death of an adolescent or young adult child: a longitudinal prospective analysis. *Death Stud* 23:129-59, 1999
- 20 Murphy SA, Johnson LC, Chung I-J, et al.: The prevalence of PTSD following the violent death of a child and predictors of change 5 years later. *Journal of Traumatic Stress* 16:17-25, 2003
- 21 宮澤浩一 田口守一, 高橋則夫(編): 犯罪被害者の研究, 成文堂, 東京, 1996
- 22 Norris FH, Kaniasty KZ, Scheer DA: Use of mental health services among victims of crime: frequency, correlates, and subsequent recovery. *J Consult Clin Psychol* 58:538-47, 1990
- 23 中井久夫 加, 藤井千太: 犯罪、事故などにより家族、肉親を失った遺族の心理的影響とケアのあり方に関する研究, (財) 21 世紀ヒューマンケア機構こころのケア研究所, 神戸, 2004
- 24 Ozer EJ, Best SR, Lipsey TL, et al.: Predictors of posttraumatic stress disorder and symptoms in adults: a meta-analysis. *Psychol Bull* 129:52-73, 2003
- 25 Prigerson HGaJ, S.C.: Traumatic Grief as a distinct disorder: a rationale, consensus criteria, and preliminary empirical test. 613-645, *American psychological association*, Washington, 2001
- 26 Resnick HS, Kilpatrick DG, Dansky BS, et al.: Prevalence of civilian trauma and posttraumatic stress disorder in a representative national sample of women. *J Consult Clin Psychol* 61:984-91, 1993
- 27 白井明美, 木村弓子, 小西聖子: 外傷的死別における PTSD. *トラウマティック・ストレス* 3:181-187, 2005
- 28 Spooen DJ, Henderick H, Jannes C: Survey description of stress of parents bereaved from a child killed in a traffic accident. A retrospective study of a victim support group. *Omega: Journal of Death and Dying* 42:171-185, 2000
- 29 Sprang G: PTSD in surviving family members of drunk driving episodes: victim and crime related factors. *Families in Society* 78:632-641, 1997
- 30 Sprang G, McNeil J: Post-homicide reactions: Grief, mourning and post-traumatic stress disorder following a drunk driving fatality. *Omega: Journal of Death and Dying* 37:41-58, 1998

- 31 佐藤志保子: 死別者における PTSD-交通事故遺族 34 人の追跡調査. 臨床精神医学 27:1575-1586, 1998
- 32 Weiss DS: The impact of the Event Scale-  
Revised. J. P. Wilson, Keane, T.M., (ed):  
Assessing psychological trauma and PTSD  
Second Edition. p. 168-189, Guilford Press,  
New York, 2004
- 33 Weiss DS, Marmar, C.R.: The impact of the  
Event Scale- Revised. J. P. Wilson, Keane,  
T.M., (ed): Assessing psychological trauma  
and PTSD: A practitioner's handbook. p.  
399-411, Guilford Press, New York, 1997

表1 対象者の属性

		(n=188)	
平均年齢(SD)	52.1(15.0)歳		
年齢幅	19～90		
		n	%
性別	男性	61	32.4
	女性	127	67.6
婚姻状態	未婚	30	16.0
	配偶者あり	115	61.2
	死別・離別	41	21.9
家族の同居	同居者なし	21	11.2
教育歴	高校以上卒業	146	77.7
就労状況	無職/家事専業/学生	77	41.0
	常勤・自営	68	36.2
	非常勤	38	20.2
	当事者団体の会員	144	76.6

表2 被害内容

		n=188	
被害からの平均経過月数(SD)		93.6(60.8)カ月	
幅		10～455ヶ月	
		n	%
被害からの経過月数	1年未満	6	3.2
	1年以上3年未満	12	6.4
	3年以上5年未満	39	20.7
	5年以上10年未満	88	46.8
	10年以上	43	22.9
罪種	故意の犯罪 <sup>1)</sup> による致死	133	70.7
	業務上過失罪による致死	18	9.6
	故意の犯罪による負傷	29	15.4
	業務上過失による負傷	2	1.1
	性暴力犯罪(強姦・強制わいせつ等)	6	3.2
記載者の被害体験 <sup>2)</sup> (複数回答)	被害者本人	25	13.3
	家族	18	9.6
	遺族	151	80.3
加害者との関係	家族・親族	7	3.7
	知人 <sup>3)</sup>	58	30.9
	見知らぬ人	91	48.4
	その他・不明	23	12.2
加害者の逮捕	逮捕された	146	77.7
	逮捕されていない	35	18.6
被害後の補償 (複数回答)	なし	30	16
	加害者からの賠償金	29	15.4
	犯罪被害者等給付金	69	36.7
	自動車保険	19	10.1
	生命保険	67	35.6
	労災保険	23	12.2
	遺族年金	16	8.5
	その他	11	5.9

1)ここでいう故意の犯罪とは、業務上過失以外の殺人、傷害等の犯罪をさす

2)記載者が被害にあつてかつ家族も傷害等の被害にあつた人(2人)は被害者本人、家族に重複して分類した。同様に遺族であつて記載者の家族が亡くなった人(4人)は、被害者本人、遺族に重複して分類した。

3)ここでは、友人、近所の人、同じ職場や学校に通っている人、その他の知人を含む

表3 司法との関わり

		n=188	
		n	%
加害者の起訴	起訴された	134	71.3
	起訴されていない/不明	14	7.5
刑事裁判/少年審判	終了(刑確定)	116	61.7
	現在行われている	15	8.0
	不明	2	1.1
証人として証言した経験	有	43	22.9
	有	56	29.8
民事裁判	終了(中絶・取り下げ含む)	69	36.7
	現在行っている	11	5.9
	行っていない	61	32.4

表4 健康状態と通院状況

		n=188	
		n	%
現在の主観的健康観	非常に健康/健康	113	60.3
	あまり健康ではない/健康でない	72	38.3
現在の通院状況	医療機関の通院	89	47.3
	精神科医療機関の通院	31	16.0
事件から今までの2週間以上の精神的不調の経験		147	78.2
事件から今までの精神科医療機関の通院経験		65	34.6

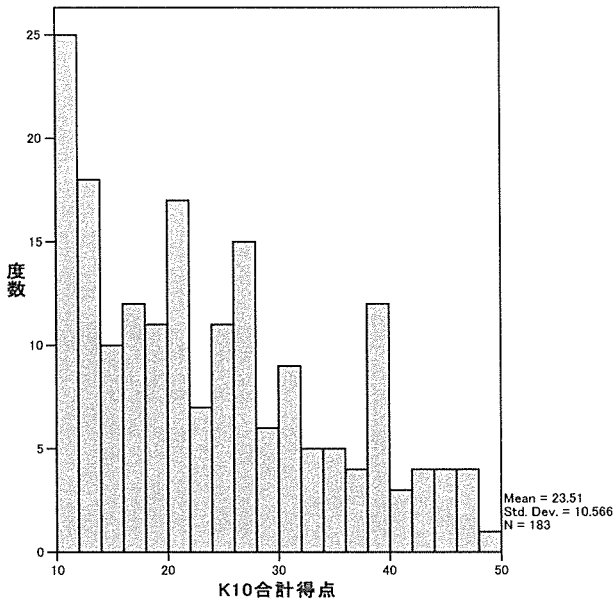


図1 K10 合計得点の分布

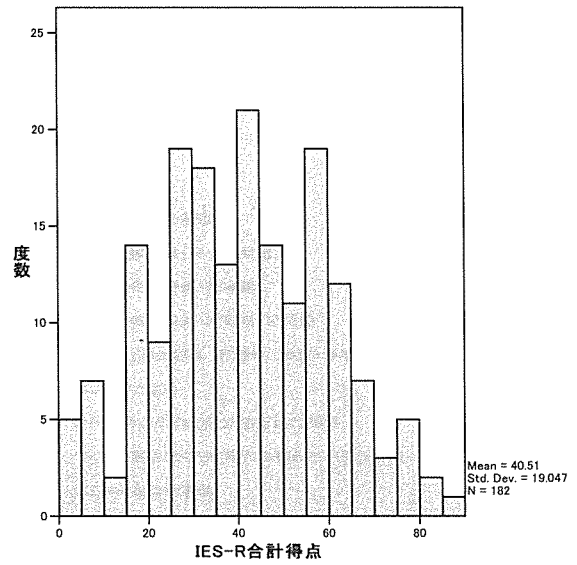


図2 IES-R の得点分布

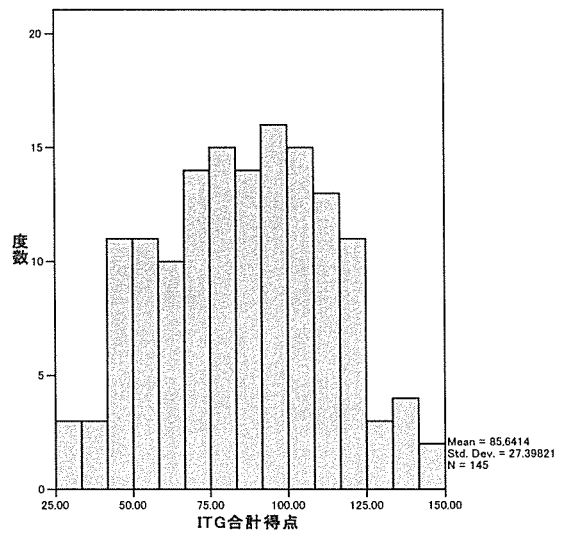


図3 ITG の得点分布

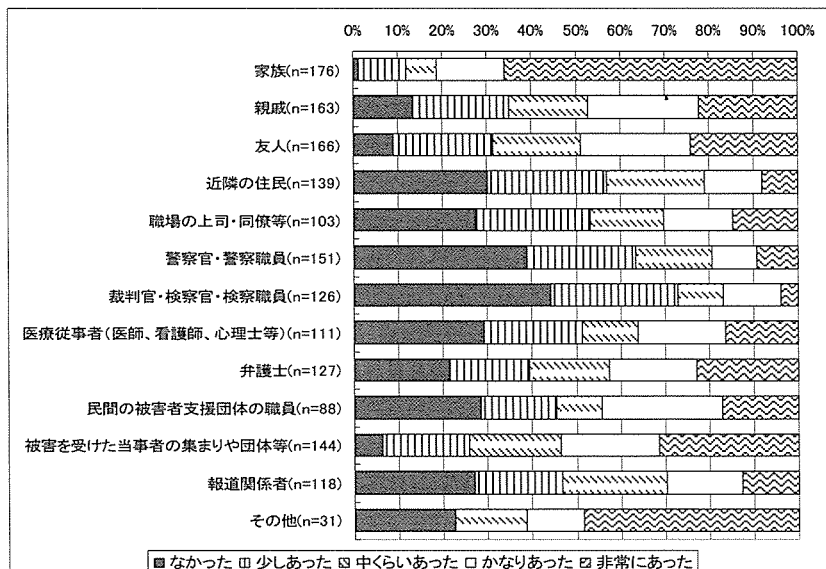


図4 主観的支援

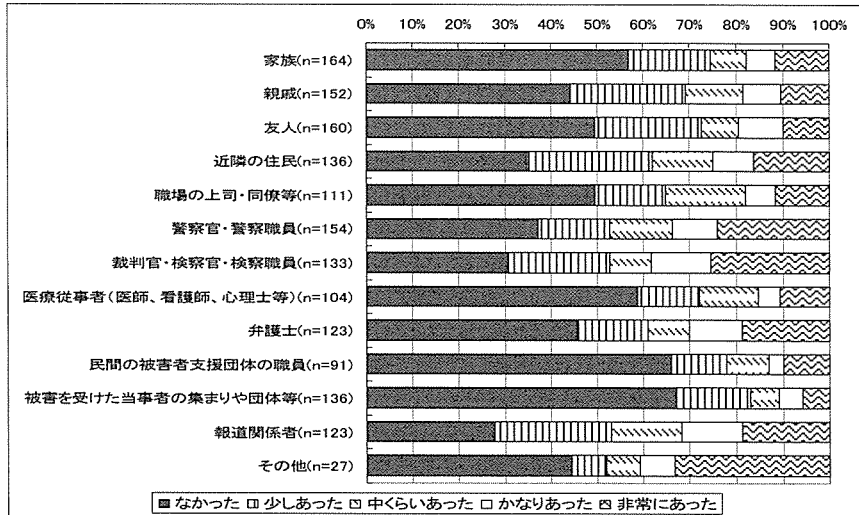


図5 主観的二次被害

表5 K10得点と他の因子との関連

		k10低得点群(n=110)		K10高得点群(n=76)		p
性別	男性	42	38.2%	18	23.7%	0.04
	女性	68	61.8%	58	76.3%	
年齢(平均年齢)		52.0	±15.7	51.8	±14.0	0.92
配偶者	有	64	58.2%	50	65.8%	0.20
教育歴	高卒以上	87	79.1	62	81.6%	0.34
就労状況	常勤/非常勤	60	54.6	46	60.5	0.48
被害からの経過年数		90.9	±15.7	98.0	±70.4	0.46
罪種	故意の犯罪による致死	81.0	73.6%	51.0	67.1%	0.12
	故意の犯罪による負傷	19.0	17.3%	9.0	11.8%	
	性犯罪	2.0	1.8%	4.0	5.3%	
	業務上過失による致死	8.0	7.3%	10.0	13.2%	
	業務上過失による負傷	0.0	0	2.0	2.6%	
被害体験	被害者本人	5	4.6%	13	17.1%	<0.01
	家族	15	13.6%	1	1.3%	
	遺族	85	77.3%	61	80.3%	
加害者の逮捕	有	85	77.3%	59	77.6%	0.85
加害者の起訴	有	79	71.8%	54	71.1%	0.75
賠償・補償等	有	87	79.1%	58	76.3%	0.74
刑事裁判	現在実施	10	9.1%	5	6.6%	0.59
民事裁判	現在実施	7	6.4%	4	5.3%	1.00
証言経験	有	23	31.1%	19	35.8%	0.70
意見陳述経験	有	26	35.6%	29	58.0%	0.02
強い恐怖	有	76	76%	64	94.1%	<0.01
無力感	有	89	91.8%	67	95.7%	0.36
戦慄	有	79	83.2%	66	97.1%	<0.01
主観的健康	非常に健康/健康	82	75.9%	31	41.3%	<0.01
	あまり健康でない/健康でない	26	24.1%	44	58.6%	
医療機関の通院	有	49	45.8%	38	52.1%	0.45
精神科医療機関の通院	有	7	14.3%	24	63.2%	<0.01
事件から現在までの2週間以上の精神的不調	有	81	85.3%	65	98.5%	0.05
事件から現在までの精神科医療機関の通院	有	30	28.3%	35	50.0%	<0.01
IES-R平均得点(SD)		32.2	±16.2	52.7	±16.2	<0.01
IES-R高得点群		73	68.2%	71	95.9%	<0.01
ITG平均得点(SD)		72	±23.8	105.1	±19.8	<0.01
複雑性悲嘆該当者		7	8%	21	35.6%	<0.01
主観的支援得点(SD)		26	±11.3	26.7	±11.1	0.72
主観的二次被害得点(SD)		17.7	±10.5	22.8	±12.3	<0.01



表6 被害体験と社会人口背景因子、司法との関わりとの関連

		被害者本人 (n=19)		家族 (n=16)		遺族 (n=147)		p
性別	男	9	47.4%	5	31.3%	45	30.6%	
平均年齢(SD)		45.3	(16.9)	58.1	(14.2)	51.7	(14.1)	0.03
婚姻状況	既婚	7	36.8%	14	87.5%	91	61.9%	0.01
教育歴	高校以上卒	16	84.2%	11	68.8%	121	82.3%	0.29
就労状況	常勤・自営	5	26.3%	3	18.8%	59	40.1%	
	非常勤	4	22.2%	3	18.8%	31	21.1%	0.38
	家事専業/学生/無職	9	47.4%	10	62.5%	53	36.1%	
事件からの経過年数(SD)		128.1	(102.6)	97.0	(37.1)	88.1	(54.7)	0.03
被害内容	故意の犯罪による致死	////		////		129	87.8	
	業務上過失による致死	////		////		18	12.2	
	故意の犯罪による負傷	12	63.2	15	93.8	////		
	業務上過失による負傷	2	10.5	0	0	////		
	性犯罪	5	26.3	1	6.2	////		
加害者の逮捕	有	7	36.8%	14	25.0%	123	83.7%	0.01>
加害者との関係	既知	14	73.7%	13	81.3%	63	42.9%	0.01>
加害者の起訴	有	5	26.3%	10	62.5%	117	79.6%	0.01>
現在の刑事裁判	有	1	5.0%	2	12.5%	12	10.3%	0.74
証人の経験	有	2	40.0%	2	18.2%	37	33.3	0.55
意見陳述の経験	有	2	40.0%	3	30.0%	50	46.3%	0.6
現在の民事裁判	有	1	5.3%	2	12.5%	8	5.4%	0.52
補償・給付等の有無	有	9	47.4%	12	75.0%	121	82.3%	0.01>
支援の認識		20.7	(10.1)	29.8	(14.8)	26.9	(10.3)	0.03
2次被害の認識		20.8	(14.5)	17.1	(14.1)	19.9	(10.6)	0.58

表7 被害体験と医療機関の受診、精神健康尺度

		被害者本人 (n=19)		家族 (n=16)		遺族 (n=147)		p
現在の医療機関の受診		13	68.4%	5	31.3%	66	46.8%	0.08
現在の精神科医療機関の受診		7	36.8%	0	0%	23	15.7%	0.1
事件から現在までの2週間以上の精神的不調		16	84.2%	10	65.2%	116	78.9%	0.01>
事件から現在までの精神科受診歴		12	63.2%	2	12.5%	49	12.9%	0.01>
K10	合計得点の平均(SD)	31.3	(11.7)	16.5	(5.2)	23.5	(10.4)	0.01>
	高得点(25≤)者の割合	13	68.4%	1	6.3%	61	41.5%	0.01>
	低得点(≤24)者の割合	5	26.3%	15	93.8%	85	57.8%	
IES-R	合計得点の平均(SD)	53.3	(17.5)	33.4	(19.1)	40.3	(18.6)	0.01>
	高得点(25≤)者の割合	16	84.2%	10	62.5%	116	78.9%	0.07
	低得点(≤24)者の割合	1	5.3%	6	37.5%	27	18.4%	



■ 最近のあなたのお気持ちについて伺います

問8 過去1ヶ月の間に、次のことがどのくらいの頻度でありましたか。ア)～コ)の各項目について当てはまる数字をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	全くない	少しだけ	ときどき	たいたい	いつも
ア) 理由もなく疲れ切ったように感じましたか。	1	2	3	4	5
イ) 神経過敏に感じましたか。	1	2	3	4	5
ウ) どうしても落ち着けないうちに、神経過敏に感じましたか。	1	2	3	4	5
エ) 絶望的だと感じましたか。	1	2	3	4	5
オ) そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1	2	3	4	5
カ) じつと座っていられないほど、落ち着かなく感じましたか。	1	2	3	4	5
キ) ゆううつに感じましたか。	1	2	3	4	5
ク) 気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じましたか。	1	2	3	4	5
ケ) 何をしても骨折りだと感じましたか。	1	2	3	4	5
コ) 自分は価値のない人間だと感じましたか。	1	2	3	4	5

■ ご自身あるいはご家族が被害にあわれた事件について伺います

※もし複数の事件を経験された場合は、全国犯罪被害者の会に入会された事件について、ご記入ください。

問9 事件が発生した年月を下の四角の中にご記入ください(不明の方は推定の年月をご記入ください)。

西 暦 □ □ □ □ 年 □ □ □ □ 月 (推定)

問10 どのような事件(罪名)でしたか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

\* 複数の被害があった場合、例えば強盗と傷害があった場合には、「13 強盗」「18 傷害」の2つに○をつけてください。また、被害にあわれた方が複数いて、罪名が異なる場合、例えば「1 人は傷害致死、もう1人は傷害の場合には、「2 傷害致死」「8 傷害」の2つに○をつけてください。

- |                                      |                        |
|--------------------------------------|------------------------|
| 1 殺人                                 | 10 交通事故以外の業務上過失事故による致傷 |
| 2 傷害致死                               | 11 暴行 <sup>3)</sup>    |
| 3 強盗致死                               | 12 強姦・強制わいせつ等の性犯罪      |
| 4 交通事故及び危険運転による致死 <sup>1)</sup>      | 13 強盗 <sup>4)</sup>    |
| 5 交通事故以外の業務上過失事故 <sup>2)</sup> による致死 | 14 誘拐                  |
| 6 その他(1～5以外)の致死                      | 15 監禁                  |
| 7 殺人未遂                               | 16 放火                  |
| 8 傷害 <sup>3)</sup>                   | 17 詐欺 <sup>7)</sup>    |
| 9 交通事故及び危険運転による致傷 <sup>4)</sup>      | 18 窃盗 <sup>7)</sup>    |
| 10 交通事故以外の業務上過失事故による致傷               | 19 その他(具体的に )          |

- <用語の説明>
- 1) 致死: 殺害が目的ではない犯罪や事故によって死に至らしめること
  - 2) 業務上過失事故: 故意ではなく、業務上必要な注意を怠ったことにより生じた事故のこと
  - 3) 傷害: 健康状態を悪化させるような傷を負わせること
  - 4) 致傷: 犯罪や事故によって傷害を負わせること
  - 5) 暴行: 身体の状態を悪化させない程度に乱暴をすること
  - 6) 強盗: 暴行または脅迫を用いて他人の持ち物を強奪すること
  - 7) 窃盗: ひそかに他人の持ち物を盗むこと

問11 事件によってあなたが被害にあわれましたか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

\* この場合の「被害」とは、直接に事件の現場に遭遇して、加害者にけがを負わせられたり、脅されたりなど危害を加えられたことをさします。

\* なお、交通事故で車に同乗されていた場合は「1 自分が被害にあった」を選択してください。

- 1 自分が被害にあった → 水色の用紙(問 12.4 頁)へお進みください。
- 2 家族が被害にあった → 黄色の用紙(問 15.6 頁)へお進みください。

※ ご自身と家族の両方が被害にあわれた方は

水色の用紙(問 12.4 頁)をご記入後 黄色の用紙(問 15.6 頁)をご記入ください。

■ ご自身が被害にあわれた方に伺います

問12 この事件によってあなたにはけががされましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。「1 けがをした」と回答された方は、どのようなけがだったかを、( )に簡単に記入してください。  
(例：打撲、右腕骨折、裂傷など)

1 けがをした どのようなけがでしたか ( )	2 けがはなかった →
-------------------------------	-------------

ご家族が被害にあわれた方は問15(6頁)にお進みください。  
ご家族が被害にあわれていない方は問18(8頁)にお進みください。

問13 (問12で「1 けがをした」と回答された方に伺います)  
事件から1年の間に事件によるけがのために、医療機関で治療を受けましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1 入院した	2 入院はしなかったが、通院はした
3 治療を受けなかった →	4 忘れた、覚えていない →

ご家族が被害にあわれた方は問15(6頁)にお進みください。  
ご家族が被害にあわれていない方は問18(8頁)にお進みください。

問14 (問13で「1 入院した」「2 入院はしなかったが、通院はした」と回答された方に伺います)  
事件から1年の間に、事件によるけがのために医療機関でどれくらいの期間、治療を受けましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください(複数の医療機関に受診された場合は、その期間を合計してください)。

1 1週間未満	5 6ヶ月以上～11ヶ月未満
2 1週間以上～1ヶ月未満	6 11ヶ月以上
3 1ヶ月以上～3ヶ月未満	7 忘れた、覚えていない
4 3ヶ月以上～6ヶ月未満	

※ ご家族が被害にあった方は続けて **黄色の用紙(問15:6頁)** をご記入ください。

ご家族が被害にあわれていない方は、 **問18(8頁)** にお進みください。

■ ご家族が被害にあわれた方に伺います

問 15 被害にあわれたご家族は何人でしたか。下の四角の中に人数をお書きください。

□ 人

問 16 ご家族の事件を最初にどのようにお知りになりましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1	事件発生時に現場にいて目撃した	
2	事件現場の発見者であった	
3	被害者本人から連絡を受けて知った	
4	警察・病院・親族等から連絡を受けて知った	
5	テレビ、新聞、雑誌などの報道を見て知った	
6	その他 (具体的に )	

問 17 被害にあわれたご家族について、以下の問いにお答えください。被害にあわれた方が1人の場合は「被害者①」のみご記入ください。2人以上のご家族が被害にあわれた場合は「被害者②～④」にもご記入ください。

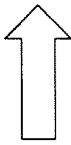
<b>a 被害にあわれたご家族との家族関係</b> (例:被害者が自分の子であった場合、「2」子)を選択)			
1	配偶者	6	きょうだい
2	子	7	祖父母
3	子の配偶者	8	孫
4	親	9	その他
5	配偶者の親		(具体的に )
<b>b 被害にあわれたご家族の性別</b>			
1	男性	2	女性
<b>c 被害にあわれた方の事件当時の年齢</b> (不明の場合は年代でお答えください)			
		( ) 歳 (年代)	
<b>d 被害にあわれた方の事件による生存とけがの有無</b>			
1	けがはなかった	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">問 18(8頁)</div> </div>	
2	けがをした		
3	亡くなった		
4	不明 (行方不明など)		
<b>e 被害にあわれた方の事件によるけがの現在の回復状況</b>			
1	ほぼ治った		
2	治っていない		
3	わからない		

<b>a 被害にあわれたご家族との家族関係</b> (例:被害者が自分の子であった場合、「2」子)を選択)			
1	配偶者	6	きょうだい
2	子	7	祖父母
3	子の配偶者	8	孫
4	親	9	その他
5	配偶者の親		(具体的に )
<b>b 被害にあわれたご家族の性別</b>			
1	男性	2	女性
<b>c 被害にあわれた方の事件当時の年齢</b> (不明の場合は年代でお答えください)			
		( ) 歳 (年代)	
<b>d 被害にあわれた方の事件による生存とけがの有無</b>			
1	けがはなかった	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">問 18(8頁)</div> </div>	
2	けがをした		
3	亡くなった		
4	不明 (行方不明など)		
<b>e 被害にあわれた方の事件によるけがの現在の回復状況</b>			
1	ほぼ治った		
2	治っていない		
3	わからない		

被害にあわれたご家族が3人以上の場合、裏面にもご記入ください。

<b>a 被害にあわれたご家族との家族関係</b> (例:被害者が自分の子であった場合、「2」子)を選択)			
1	配偶者	6	きょうだい
2	子	7	祖父母
3	子の配偶者	8	孫
4	親	9	その他
5	配偶者の親		(具体的に )
<b>b 被害にあわれたご家族の性別</b>			
1	男性	2	女性
<b>c 被害にあわれた方の事件当時の年齢</b> (不明の場合は年代でお答えください)			
		( ) 歳 (年代)	
<b>d 被害にあわれた方の事件による生存とけがの有無</b>			
1	けがはなかった	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">問 18(8頁)</div> </div>	
2	けがをした		
3	亡くなった		
4	不明 (行方不明など)		
<b>e 被害にあわれた方の事件によるけがの現在の回復状況</b>			
1	ほぼ治った		
2	治っていない		
3	わからない		

黄色の用紙の後、問 18 (8 頁) にお進みください



問 18(8 頁)から問 29(10 頁)までは**すべての方**に伺います

■ 加害者について伺います(加害者が複数の場合は、主犯となった加害者についてお答えください)

問 18 被害者と加害者の関係について伺います。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。  
(あなたとご家族の両方が被害にあわれた場合には、あなたとの関係についてお書きください)

- 1 まったく関係のない人
- 2 友人、近所の人、その他の知人
- 3 家族、親族
- 4 同じ職場、学校に通っている人
- 5 不明
- 6 その他 (具体的に)

問 19 加害者は逮捕されましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 1 逮捕された (被疑者が在宅のまま捜査が行われた場合も含む)
  - 2 逮捕されていない
  - 3 不明
- 次ページ問 25 にお進みください

■ 裁判及び加害者の処分について伺います (補償の場合は、主犯となつた加害者についてお答えください)

問 20 加害者は起訴されましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 1 起訴された (略式起訴<sup>1)</sup>、少年審判<sup>2)</sup>を含む)
  - 2 起訴されていない
  - 3 不明
- 次ページ問 24 にお進みください

<用語の説明>

- 1) 略式起訴：公判をせずに、50万円以下の罰金または科料を科す手続き
- 2) 少年審判：家庭裁判所が少年の処分を決定するために行う裁判

問 21 (問 20 で「1 起訴された」と回答された方へ伺います)  
刑事裁判あるいは少年審判の経過について、当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。  
第一審、第二審後、控訴・上告となっている方は、「2 刑事裁判(少年審判)中である」に○をつけてください。

- 1 刑事裁判(少年審判)が終了し、刑(処分)が確定している
  - 2 刑事裁判(少年審判)中である
  - 3 刑事裁判(少年審判)はまだ行われていない
  - 4 よくわからない
- 次ページ問 24 にお進みください

問 22 (問 21 で「1 刑事裁判(少年審判)が終了し、刑(処分)が確定している」あるいは「2 刑事裁判(少年審判)中である」と回答された方へ伺います)  
あなたは裁判で証人として証言されましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 1 はい
- 2 いいえ

問 23 (問 21 で「1 刑事裁判(少年審判)が終了し、刑(処分)が確定している」あるいは「2 刑事裁判(少年審判)中である」と回答された方へ伺います)  
あなたは裁判で、被害者(家族)として意見陳述<sup>1)</sup>をされましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 1 はい
- 2 いいえ

<用語の説明>

1) 被害者(家族)としての意見陳述：被害者あるいは被害者の法定代理人が法廷で事件や加害者に関する意見を述べること

問 24 (問 19 で加害者が「1 逮捕された」と回答されたすべての方へ伺います)  
今回の事件に関する民事裁判の経過について、当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 1 民事裁判は終了した(中断、取り下げも含む)
- 2 民事裁判(控訴)中である
- 3 民事裁判は行っていない

■ 補償・給付等について伺います

問 25 今回の事件に対して何らかの補償・給付がありましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 1 なし
- 2 加害者等からの賠償金
- 3 犯罪被害者等給付金
- 4 自動車保険の支払い
- 5 生命保険の支払い
- 6 労災保険(労働者災害補償保険)の支払い
- 7 障害年金の給付
- 8 遺族年金の給付
- 9 その他(具体的に)

■ 事件についてのあなたのお気持ちを伺います

問 26 ご自身あるいはご家族が被害にあわれた時に以下のような気持ちを感じましたか。ア)～ウ)について、それぞれ当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- ア) とても強い恐怖を感じた..... 1 はい 2 いいえ
- イ) どうすることもできないという無力感を感じた..... 1 はい 2 いいえ
- ウ) 体が震えるような、ぞつとする感じがした..... 1 はい 2 いいえ

問 27 下記ア)～二)の項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事に巻き込まれた方々に、後になって生じることのあるものです。この1週間では、事件についてそれぞれの項目の内容にどの程度強く悩まされましたか。ア)～二)の各項目について当てはまる数字にそれぞれ1つずつ○をつけてください。  
(なお、回答に迷われた場合には、不明とせず、最も近いと思うものを選んでください)

	全くなし	少し	中くらい	かなり	非常に
ア) どんなきっかけでも、その事件のことを思い出すと、そのときの気持ちがおぼろかえってくる	0	1	2	3	4
イ) 睡眠の途中で目が覚めてしまう	0	1	2	3	4
ウ) 別のことをしていても、その事件のことが頭から離れない	0	1	2	3	4

問 30(11 頁から 14 頁)は「ご遺族の方のみ」に伺います。  
それ以外の方は問 31(15 頁)へお進みください。

問 30 あなたが最近の 1 ヶ月で感じていることに最も当てはまる答えを、以下のア)～ホ) 各質問に関して 1 つだけ選んで○をつけてください。  
文章中、「」になっている部分は、あなたが失い、今も悲しんでいる人のことを指しています。  
(なお、回答に迷われた場合には不明とせず、最も近いと思うものを選んでください)

多くの場合で選択肢となっている回答の目安は以下のとおりです  
「ほとんどない」…… 1 ヶ月に 1 回あるか、それ以下  
「めったにない」…… 1 ヶ月に 1 回もしくはそれ以上あるが、毎週ではない  
「ときどきある」…… 週に 1 回もしくはそれ以上あるが、毎日ではない  
「しばしばある」…… 毎日 1 回くらいある  
「いつももある」…… 1 日に何回もある

- ア)  の死は、圧倒されるようなすさまじい体験だったと感じる
- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |       |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | ほとんどない | 2 | めったにない | 3 | ときどきある | 4 | しばしばある | 5 | いつもある |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
- イ)  のことをよく思い返すので普通にやっていることができなくなる
- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |       |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | ほとんどない | 2 | めったにない | 3 | ときどきある | 4 | しばしばある | 5 | いつもある |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
- ウ)  のことを思い出すと気持ちが動揺する
- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |       |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | ほとんどない | 2 | めったにない | 3 | ときどきある | 4 | しばしばある | 5 | いつもある |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
- エ) その死を受け入れることは難しいと思う
- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |       |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | ほとんどない | 2 | めったにない | 3 | ときどきある | 4 | しばしばある | 5 | いつもある |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
- オ) 自分は  のことを慕い、思い焦がれていると感じる
- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |       |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | ほとんどない | 2 | めったにない | 3 | ときどきある | 4 | しばしばある | 5 | いつもある |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
- カ)  に関連する場所や物事に引き寄せられていると思う
- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |       |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | ほとんどない | 2 | めったにない | 3 | ときどきある | 4 | しばしばある | 5 | いつもある |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|

	全くなし	少し	中くらい	かなり	非常に
エ) イライラして、怒りっぽくなっている	0	1	2	3	4
オ) その事件のことについて考えたり、思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている	0	1	2	3	4
カ) 考えるつもりはないのに、その事件のことを考えてしまうことがある	0	1	2	3	4
キ) その事件のことは実際には起きなかつたとか、現実のことではなかつたような気がする	0	1	2	3	4
ク) その事件のことを思い出させるものには近よらない	0	1	2	3	4
ケ) そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる	0	1	2	3	4
コ) 神経が過敏になっていて、ちょっとしたことでどきどきしてしまう	0	1	2	3	4
サ) その事件のことは考えないようになっている	0	1	2	3	4
シ) その事件のことについては、まだいろいろな気持ちがあるが、それには触れないようになっている	0	1	2	3	4
ス) その事件のことについての感情は、マヒしたようである	0	1	2	3	4
セ) 気がつくと、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある	0	1	2	3	4
ソ) 寝つきが悪い	0	1	2	3	4
タ) その事件のことについて、感情が強くなりみあげてくることがある	0	1	2	3	4
チ) その事件のことを何となく忘れようとしている	0	1	2	3	4
ツ) ものごとに集中できない	0	1	2	3	4
テ) その事件のことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、ときどきすることがある	0	1	2	3	4
ト) その事件のことについての夢を見る	0	1	2	3	4
ナ) 警戒して用心深くなっている気がする	0	1	2	3	4
ニ) その事件のことについては話さないようにしている	0	1	2	3	4

問 28 事件から現在までの間に、眠れない、気持ちが落ち込む、不安になるなどの精神的不調が、2 週間以上続いた時期はありましたか。当てはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。

- |   |           |   |            |   |        |
|---|-----------|---|------------|---|--------|
| 1 | 続いた時期があった | 2 | 続いた時期はなかった | 3 | 覚えていない |
|---|-----------|---|------------|---|--------|

問 29 事件から現在までの間に、精神科（神経科含む）や心療内科を受診したことはありますか。当てはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。

- |   |           |   |           |   |        |
|---|-----------|---|-----------|---|--------|
| 1 | 受診したことがある | 2 | 受診したことはない | 3 | 覚えていない |
|---|-----------|---|-----------|---|--------|

キ)  の死に関して、怒りを感じずにいられない

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

ク)  の死は、どうしても懼じられない気がする

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

ケ)  の死について考えると頭がガンガンしたり、**緊張**となったり、あるいはショックを受けたりする

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

コ)  が亡くなって以来ずっと、他人を信用できなくなった

- 1 他人を信用することに困難を感じない  
2 わずかに困難を感じることもある  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

サ)  が亡くなって以来ずっと、他人を気づかうことができなくなった気がする、あるいは思いやるべき人との間に距離を感じるようになった

- 1 他人と親近感やつながりを感じることには困難はない  
2 他人から切り離されたとわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

シ)  と身体の一部が痛くなったり、いくつかの同じ症状がある、あるいは  のふるまいや特徴を自分で取り込んだものがある

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

ス)  が死んでしまったことを思い出させるものを選けるために、**巡回**をする

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

セ)  がない人生は空っぽで、無意味のような感じがする

- 1 空虚さや無意味さを感じることはない  
2 空虚さや無意味さをわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

ソ)  が私に話しかけてくる声が聞こえることがある

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

タ)  が私のすぐ前に立っている姿を見ることがある

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

チ)  が死んでから、**痛み**が継続してしまっように感じる

- 1 麻痺したように感じることはない  
2 麻痺したようにわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

ツ)  が亡くなったのに、自分が生きて行かねばならないのは不公平だと感じる

- 1 自分が生き残っていることと罪責感を感じることはない  
2 罪責感をわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

テ)  の死をとても苦しく辛いものだと感じる

- 1 辛さを感じることはない 4 強く感じる  
2 辛さをわずかに感じる 5 どうにもならないほど強く感じる  
3 少し感じる

ト) **身近な人**を亡くしたことがない人を、わたしと感ずる

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

ナ)  なしには、自分の未来には何の意味も目的もないように感じる

- 1 未来に何の目的もないと感じることはない  
2 未来に何の目的もないとわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

ニ)  が死んでからずっと、一人ぼっちだと感じている

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある

ヌ)  なしには、人生が充実したものになるとは考えられない

- 1 ほとんどない 2 めったたにない 3 ときどきある 4 しばしばある 5 いつもある



ここから先はすべての方に伺います

■ 事件後に受けた支援について伺います

問 31 事件から現在までの間に、あなたにとって以下の人々が支えや助けになったと感じることはありましたか。ア)～ス)までの人々に対し、それぞれ当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。かかわりのない場合には、「0」の番号に○をつけてください。

	かかわりがなかった	かかわりがあり、支えや助けになったと感じることは			
		なかった	少しあった	中くらいあった	かなりあった
ア) 家族	0	1	2	3	5
イ) 親戚	0	1	2	3	5
ウ) 友人	0	1	2	3	5
エ) 近隣の住民	0	1	2	3	5
オ) 職場の上司・同僚等	0	1	2	3	5
カ) 警察官・警察職員	0	1	2	3	5
キ) 裁判官・検察官・検察職員	0	1	2	3	5
ク) 医療従事者 (医師、看護師、心理士等)	0	1	2	3	5
ケ) 弁護士	0	1	2	3	5
コ) 民間の被害者支援団体の職員	0	1	2	3	5
サ) 被害を受けた当事者の集まりや団体等	0	1	2	3	5
シ) 報道関係者	0	1	2	3	5
ス) その他 (具体的に )	0	1	2	3	5

問 32 事件から現在までの間に、以下の人々の言動によりあなたの気持ちが悪化がひどくなったと感じることはありましたか。ア)～ス)までの人々に対し、それぞれ当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。かかわりのない場合には、「0」の番号に○をつけてください。

	かかわりがなかった	かかわりがあり、気持ちが悪化がひどくなったと感じることは			
		なかった	少しあった	中くらいあった	かなりあった
ア) 家族	0	1	2	3	5
イ) 親戚	0	1	2	3	5
ウ) 友人	0	1	2	3	5
エ) 近隣の住民	0	1	2	3	5
オ) 職場の上司・同僚等	0	1	2	3	5
カ) 警察官・警察職員	0	1	2	3	5
キ) 裁判官・検察官・検察職員	0	1	2	3	5
ク) 医療従事者 (医師、看護師、心理士等)	0	1	2	3	5
ケ) 弁護士	0	1	2	3	5
コ) 民間の被害者支援団体の職員	0	1	2	3	5
サ) 被害を受けた当事者の集まりや団体等	0	1	2	3	5
シ) 報道関係者	0	1	2	3	5
ス) その他 (具体的に )	0	1	2	3	5

ネ)  が亡くなったときに、私の一部も死んでしまったと感じる

- 1 ほとんどない    2 めったにない    3 ときどきある    4 しばしばある    5 いつもある

ノ)  の死によって私の世界観は変わったと感じる

- 1 世界観が変わったと感じることはない  
2 世界観が変わったとわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

ハ)  が死んでから、安全感や安心感が持たなくなると感じる

- 1 安全感には変化はない  
2 安全感がなくなるとわずかに感じる  
3 少し感じる  
4 しばしば感じる  
5 いつも感じる

ヒ)  が死んでから、自分自身をコントロールできているという感覚がなくなってしまうと感じる

- 1 自分がコントロールできている感覚に変化はない  
2 自分がコントロールできていないとわずかに感じる  
3 自分がコントロールできていないと少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

フ) 悲嘆(愛する人を亡くした悲しみ)のために社会的、職業的あるいは他の領域における自分の機能がとても細なわれていると思う

- 1 損なわれていない  
2 少し損なわれている  
3 やや損なわれている  
4 強く損なわれている  
5 とても強く損なわれている

ヘ)  の死から、とてもイライラしたり、過敏になっていたり、さいさいなことでも驚きやすくなったと感じる

- 1 イライラしていると感じることはない  
2 イライラしていると感じる  
3 少し感じる  
4 強く感じる  
5 どうにもならないほど強く感じる

ホ)  の死から睡眠は...

- 1 基本的に大丈夫である(問題はない)  
2 少しだけ損なわれている  
3 やや損なわれている  
4 強く損なわれている  
5 とても強く損なわれている

■ あなたご自身のことについて伺います

問 33 現在、配偶者はいですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1 未婚	2 配偶者あり	3 死別	4 離別
------	---------	------	------

問 34 現在、あなたが同居しているご家族はどなたですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1 同居者なし	5 きょうだい
2 配偶者	6 孫
3 子ども (子の配偶者含む)	7 その他 (具体的に)
4 親 (配偶者の親も含む)	

問 35 あなたの現在のお住まいはどの地域ですか。当てはまる地域の番号を1つ選んで○をつけてください。

1 北海道	(北海道)
2 東北	(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県)
3 関東	(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・茨城県・栃木県・群馬県・山梨県・長野県)
4 北陸	(新潟県・富山県・石川県・福井県)
5 東海	(岐阜県・静岡県・愛知県・三重県)
6 近畿	(京都府・大阪府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県)
7 中国	(鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県)
8 四国	(徳島県・香川県・愛媛県・高知県)
9 九州・沖縄	(福岡県・佐賀県・長崎県・大分県・熊本県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県)

問 36 あなたの受けた教育について伺います。在学中の方はその学校を、卒業された方は最終卒業学校 (中途退学された人は、その前の卒業学校) について、当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1 小学校	5 大学
2 中学校	6 大学院 (修士・博士課程)
3 高校・旧制中学	7 その他 (具体的に)
4 短期大学・高等専門学校	

問 37 現在の主なお仕事について伺います。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1 常勤 (専任職員、正社員等)	5 専業主婦・主夫
2 非常勤 (パート、アルバイト等)	6 無職 (学生、専業主婦・主夫以外)
3 自営業、家業の手伝い	7 その他 (具体的に)
4 学生	

次のページへお進みください

最後に、このアンケートについてのご意見、ご感想等がございましたら以下の欄にお書きください。また、犯罪被害にあわれた方やそのご家族に対して、医療関係者および機関等が取り組むべき問題についてのご意見がありましたらお書きください。

アンケートは以上で終了です。

ご協力ありがとうございました。



最後に記入漏れがないかどうかご確認いただき、  
水色の返信用封筒に1部ずつ入れ、ご返送ください。

平成18年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）  
犯罪被害者の精神健康の状況とその回復に関する研究  
分担研究報告書

**地域精神保健福祉機関における犯罪被害者支援**

分担研究者 山下俊幸（京都市こころの健康増進センター）

**研究要旨**

目的：1）平成17年度の研究結果によれば、精神保健福祉センターなどの地域精神保健福祉機関が犯罪被害者等支援に果たすことのできる役割としては、精神保健福祉相談、医療機関などの関係機関についての情報提供、関係機関職員への研修や技術援助、関係機関や関係団体との連携等が考えられた。そこで、平成18年度研究では、「犯罪被害者等支援のための地域精神保健活動の手引き（案）－精神保健福祉センター・保健所・市町村における支援－」（以下、手引き案）を作成することを目的とした。2）また、犯罪被害者等支援において自助グループの重要性が指摘されている。そこで、今年度は大阪市にある自助グループの代表者や事務局との意見交換を実施し、被害者の精神保健ニーズを踏まえた犯罪被害者等のための自助グループ支援のあり方について検討を進めることとした。

方法：1）班会議において手引き案の内容について検討し、研究協力者により分担執筆し、分担研究者がとりまとめた。2）自助グループ支援のあり方を検討するため、社団法人京都犯罪被害者支援センターの協力を得て、継続して活動している、TAV交通死被害者の会事務局、少年犯罪被害者の会代表者との意見交換を行った。3）事例については個人が特定されないようにした。また自助グループとの意見交換報告については、報告前に了承を得ることで、倫理面に配慮した。

結果：1）手引き案の内容は以下の通りとした。1. 犯罪被害者支援の歩み 2. 犯罪被害者等基本法と犯罪被害者等支援基本計画 3. 犯罪被害者と司法制度 4. 犯罪被害者等における精神保健相談（電話・面接） 5. 精神障害者の受ける犯罪被害 6. 福祉制度等の利用 7. 関係機関との連携 8. 自助グループ紹介 9. 資料 2）自助グループの意義とともに、以下のような意見も出された。「会合を開催するとき、冷静な第三者にいてもらいたいと思うことがある。個別相談だけでなく、各分科会のグループにもカウンセラーに入ってほしいが、なかなか続く人がみつからない。」「運営している人のケアもほしい。相談を受けるこちらも当事者なので、内容にあまり感情移入しないように努めて冷静に対応しているが、そのために相談相手から、『あんたにはわからない』と言われ傷ついたり、そう解釈されるのは自分の体験を忘れて冷たい対応をしてしまったのかと悩んだりする。」「自分とやり方が違うと、会員どうしが非難しあうようになることがある。問題点や考え方は違うのがあたりまえで、それを攻撃材料にしないということを約束事にした。突然の事件をきっかけに知り合うと、急速に親しくなり、何もかも同じ方向に行けると錯覚する。急激に親しくなった人に限って、相違点を見つ

けた時よけいに幻滅する。」「とにかく、まずはよく知ってもらうことが必要ではないか。今のところは保健所でも、まだ知識や技術がなく、被害者の相談には応じられない。世間の人は、被害者は特別な人と思っていて何も知らない。腫れ物に触るように特別扱いされていてはだめで、自然に話を聞いてもらい、知ってもらう。」

**考察と結論：**1) 今年度の研究では、手引き案としてまとめたが、より活用しやすくするために、事例の収集や関係機関連携などさらなる検討が必要と考えている。来年度は、研究班全体からの意見も取り入れて、手引きとしてまとめる予定である。2) 自助グループへの支援の可能性について示唆が得られたが、実際に運用するにはまだ検討を深める必要がある。自助グループは、本来、自発的な当事者の集まりである。グループへの支援が、その自主性を犯すことになってはならない。そのあたりの配慮についても、今後なお検討していく必要がある。

なお、本研究報告「地域精神保健福祉機関における犯罪被害者支援」は3部から構成されており、本報告書を補完するものとして、後掲する

- 1) 犯罪被害者等支援のための地域精神保健福祉活動の手引き(案)ー精神保健福祉センター・保健所・市町村における支援ー
  - 2) 研究協力報告書「自助グループ支援のあり方に関する調査報告」
- の二つの報告書を含むものである。

## 研究協力者

川島道美 (千葉県精神保健福祉センター)  
酒井ルミ (兵庫県立精神保健福祉センター)  
長楽鉄乃祐 (香川県精神保健福祉センター)  
寺田 倫 (静岡市こころの健康センター)  
富永秀文 (鹿児島県精神保健福祉センター)

## A. 研究目的

平成17年度の研究結果によれば、精神保健福祉センターなどの地域精神保健福祉機関が犯罪被害者等支援に果たすことのできる役割としては、精神保健福祉相談、医療機関などの関係機関についての情報提供、関係機関職員への研修や技術援助、関係機関や関係団体との連携等が考えられる。その一方で、PTSDをはじめとした診療については十分に行うことは困難であり、その点から考えると医療機関の体制の充実が求められた。

したがって、精神保健福祉センターなど地域精神保健福祉機関が犯罪被害者支援に取り組

むために、司法制度の紹介なども含んだ支援のための手引きの作成を進めるとともに、手引きに基づいた精神保健福祉関係職員を対象とした研修の充実、医療機関、民間団体を含めた関係機関との連携について検討を進めていくことが必要である。

そこで、平成18年度研究では、「犯罪被害者等支援のための地域精神保健活動の手引き(案)ー精神保健福祉センター・保健所・市町村における支援ー」(以下、手引き案)を作成することを目的とした。

また、犯罪被害者等支援において自助グループの重要性が指摘されているが、自助グループ支援については、昨年度の研究結果によると、精神保健福祉センターとして必ずしも優先度は高いものではなかった。これは、相談件数がまだ少ない状況であることと密接に関連しているものと推定される。今後、相談件数が増えることになれば、優先度も変化する可能性がある。